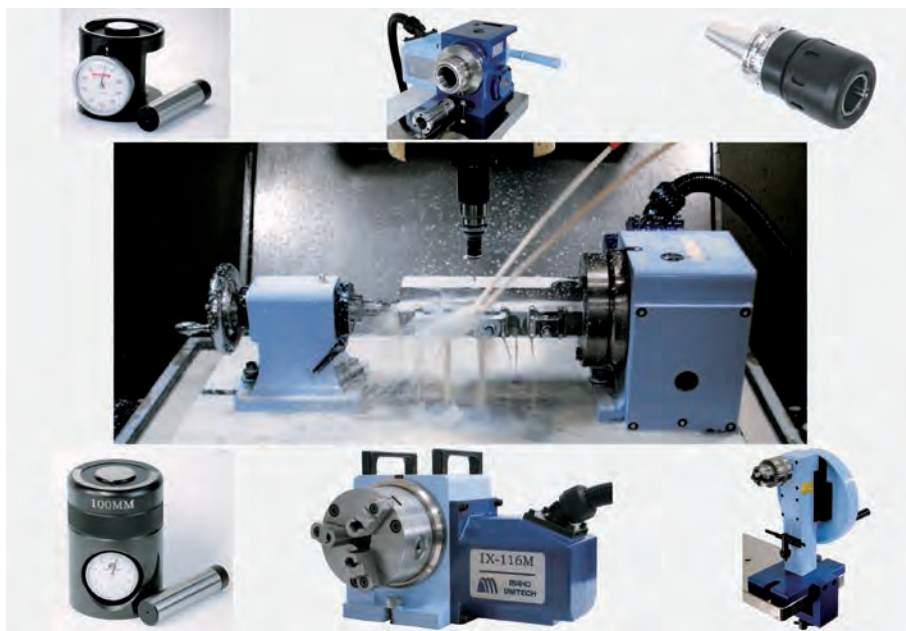


メイコーマシン 株式会社

工作機械周辺機器の開発と

精密機械部品の製造で独自性を追求

- 納期 相談
- 企画力 自信有
- コスト 相談
- メイドイン 日本
- 試作可 小ロット
- 量産 対応



匠の技から生まれた工作機械周辺機器

業務内容

生産現場の発想と知恵
で製品開発などを推進

工作機械周辺機器の研究開発と、工業用ミシンを中心とした精密機械部品の加工がメイン。工作機械周辺機器においてはMC（マシンニングセンター）の主軸先端に装着するツールホルダ、高精度加工を実現するCNC（コンピュータ数値制御）小型インデックステーブル、機械加工後の面取りやバリ取りに有効な手動回転工具「サラエ丸」などを開発し、自社ブランドで展開する。一方、精密部品加工は、匠の技を持った熟練者が高品質の加工を実現する。熟練者からの知恵と発想をベースに全社一丸となって製品開発や新たな加工方法の確立に取り組んでいる。

強み

国家技能検定の推進で
技術力の向上を図る

工場内にNC（数値制御）旋盤、複合旋盤、MC、ワイヤー放電加工機、円筒研削盤などを配置し、あらゆる素材の加工に対応する。強みはレベルの高い加工技術で、製造現場に関わる社員10名全員が国家技能士の資格を持つ。当初はISOの取得で組織全体のレベルアップを求めたのか、それとも技能検定で個々のレベルアップを図っていくのか迷った時期もあったそうだが、中井敏文社長は「個人のレベルアップにより、会社全体に相乗効果が生まれている」とし、今後も技能検定取得を推進していくことで技術力のさらなる向上を目指す。

差別化

アナログ&ローテクで
差別化を図る

工作機械周辺機器の研究開発は、「アナログでローテクかもしれないが、現場が必要とする特徴のある製品の開発をモットーにしている」と中井社長は語る。そして開発した製品は、自社の生産現場で使用して、改良に改良を重ねるなど現場ニーズを追求する。そういった中で生まれたのが、ダイヤルゲージの最小目盛が0.005mmというZ軸原点設定器。これは、MCに取り付けられた切削工具のZ軸方向に対する基準高さなどを測定するものだが、「センサーで検知する製品が主流であるが、小径刃物を目視で確認したいという要望から開発した」という。昨年開催された日本国際工作機械見本市に出品、注目を集めるなど認知度も高まってきている。

今後の展望

工場統合で体制を強化、
国内販売にも注力

平成26年2月に生産設備の効率化などを目的に大東工場を本社工場に統合した。これにより中井社長は「社員間のコミュニケーションもより活発になり、加工技術や品質の向上につながっている」と語る。自社ブランド製品が充実してくる中、国内での販売強化を進める一方で、海外展開についても「米国で商標登録したブランドもあるの、将来的には輸出も行ってみたい」と意欲をみせる。



生産体制の統合で新たなスタートを切った本社工場

COMPANY PROFILE

メイコーマシン株式会社

大阪 26

当社の歴史

昭和63年に工業用特殊ミシンの開発を目的に泉佐野市に会社を設立しました。平成3年に和泉市へ移転し、精密部品加工を進めながら産業機械の研究開発や試作加工を行ってきました。産業機械の試作開発が特許取得につながり、「やれば出来る」という信念が弊社の基礎になっています。

「心のもったものづくり」で、
お客様が喜んで使っていただける製品をつくります！

代表取締役 中井 敏文さん



■主な事業内容

工作機械周辺機器の
製造・販売、精密機械・
機器の部品製造

■主な取引先（納入先）

精密機器・産業機器
メーカーおよび設計会
社、縫製機械メーカー、
機械商社・工具商社など

住所 / 〒594-0052
和泉市阪本町
48-1

TEL / 0725-46-2862
FAX / 0725-46-2863

創業 / 昭和63年3月
設立 / 昭和63年3月
資本金 / 2,500万円
従業員 / 13名

<http://www.meikomachine.co.jp/>